

重点施策12 文化振興事業の充実

【施策方針】

優れた文化芸術事業や郷土の先駆者を顕彰する企画展、歴史探検学習等を実施し、市民が文化活動・郷土史学習に参加し体験できる場を提供することにより、郷土愛を育むとともに、文化活動の支援と地域文化を支える人材の育成に主眼を置き、幅広い分野での芸術、文化活動の市民への普及、啓発を実施する。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

■文化芸術事業の振興

- ① 八幡浜市美術展の開催
- ② 県展八幡浜移動展の開催
- ③ 長野ヒデ子絵本原画展「やわたはまへ いきタ〜イ」の開催
- ④ 八幡浜市民ミュージカル「北針」の開催
- ⑤ 文化拠点の整備及び充実

■文化会館事業

- ① 文化会館管理・運営
- ② 自主文化事業の開催
- ③ 企画プロデュース事業への助成
- ④ カルチャー教室・ロビー展の開催

(2) 施策・事業の実施状況

■文化・芸術事業の振興

① 八幡浜市美術展の開催

市民より作品を募集し、絵画（洋画、日本画）、書道、写真、工芸等の各分野から221点の応募があった。特に優秀な作品については市展優賞、市長賞、議長賞、教育長賞、文化協会長賞、推奨、高校生奨励賞等の表彰を行い、作品制作の励みとなるようにした。

観覧料は無料。観覧者1,373人（八幡浜市美術展委託料）391千円

② 県展八幡浜移動展の開催

県展出品者の中から、八幡浜市出身者の作品を中心にして、八幡浜市美術展と同じく、絵画（洋画、日本画）、書道、写真等の作品129点を展示した。

観覧料は無料。観覧者921人（県展八幡浜移動展委託料）260千円

③ 長野ヒデ子絵本原画展「やわたはまへ いきタ〜イ」の開催

市民ギャラリーが図書館との複合施設である特色を生かして、市民ギャラリー初となる絵本原画展を開催した。『せとうちたいこさん』シリーズで人気の愛媛県今治市出身の絵本作家長野ヒデ子さんの絵本原画を紹介した。

オープニングイベントとして長野ヒデ子さん講演会や落語絵本「いちいちじゅうのもおくもく」を書いた桂文我落語会を開催、また期間中にギャラリーコンサート等の関連事業を開催した。

会期 8月10日～9月8日（26日間） 観覧者 1,040人 （資料展示輸送委託料ほか） 4,526千円

④ 八幡浜市民ミュージカル「北針」の開催

「北針」という方位磁針を頼りに、打瀬船で太平洋を諦めずに渡った先人たちの「進取の気性」を描いた市民ミュージカルを開催した。オーディションによって選ばれた市民キャストたちの熱気あふれる演技により、多くの方々に感動をお届けできた。

公演日時：7月27日、28日 計3回公演

出演者数：59人（市民キャスト53人、特別出演3人、ゲスト3人）

入場者数：計2,194人、（市民ミュージカル委託料ほか）5,532千円

⑤ 文化拠点の整備及び充実

平成31年2月に着工した八幡浜市民文化活動センターの建設を推進。1階の美術館、会議室、和室、音楽練習室及びスタジオについては令和2年3月末完成。2階ホール部分は令和2年7月末完成予定。

■文化会館事業

① 文化会館管理・運営

市民の日常の学習や文化活動の場として自己を高め、芸術文化の向上と地域文化を育み創造を図るとともに、生涯学習の拠点として自主文化事業の他、貸館業務や企画プロデュース事業、カルチャー教室、ロビー展などを実施した。

② 自主文化事業の開催

「上妻宏光 STANDARD SONGS feat. 佐藤竹善 2019」や「千住真理子ヴァイオリン・リサイタル」など、音楽ホールとしての機能を重視して整備した大ホールでのクラシック系のコンサートやポピュラー音楽など幅広いジャンルの公演を開催した。なお、3月に予定していた「井上あずみ&ゆーゆファミリーコンサート」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

③ 企画プロデュース事業への助成

市民が企画・立案し自主運営する文化事業（映画会・講演会・コンサート等）の支援を実施した。1件（井上ハルカCD発売記念サクソフォンリサイタル）

④ カルチャー教室・ロビー展の開催

カルチャー教室については、地域文化の創造に貢献できる人材を育成するために公民館の学習講座と整合を図り「夢づくり・夢学び」をキャッチフレーズに、3講座をそれぞれ年間10回開講した。

また、ロビー展を作品発表の場として開放し「ミニ美術館」として活用し、市民の方々の優れた作品を展示し鑑賞していただいている。

【事務事業点検評価委員意見】

○ 文化・芸術事業のなかで、八幡浜市美術展では、絵画・書道・写真・工芸などの各分野から221点もの応募があった。どの作品も、制作者の想いが伝わってくる迫力あるものであり、市民の文化的なレベルの高さが伺える。市美術展で、高校生奨励賞を設けていることは、若い才能を伸ばす上で、大変意義がある。1,373名もの観覧者があり、市美術展が、市民に親しまれていることが分かる。県展八幡浜移動展においても、各分野から多様な作品が出品されており、芸術に触れることのできる環境があることは、大切なことだと感じた。

長野ヒデ子絵本原画展は、今治市出身の絵本作家長野ヒデ子さんの原画展を、図書館の市民ギャラリーで開催したものであるが、作家自身が出席されてオープニングイベントも盛り上がった。どこか温かく懐かしい絵本の原画の、実物を見ることができたことを喜んでいる市民は多いと思われる。

八幡浜市民ミュージカル「北針」は、打瀬船で太平洋を渡った先人たちの、「進取の気性」を描いた八幡浜市オリジナルのミュージカルである。教育長始め市民キャストの参加により創り上げた舞台は、迫力にあふれ大変感動的なものであった。舞台上、堂々と表現できる子どもたちが育っていることも日頃の教育の成果である。

○ 文化会館事業では、中央で活躍されている方々を招き、幅広いジャンルのコンサートを行い、大変好評であった。音楽ホールとしての機能を重視して整備が出来ているからこそ、実施できたものと思われる。企画プロデュース事業やカルチャー教室、ロビー展など、地道な活動が継続していることも、有意義である。市民に対しての広報活動に、さらに力を入れると一層盛り上がることと思われる。

【自己評価】

○ 児童生徒に本格的な芸術作品の鑑賞の機会を提供することは、将来にわたり文化芸術への関心を高め、成人層にも展覧会や美術作品を身近に感じていただく契機となる。令和2年4月には八幡浜市美術館がオープンした。美術館として高い機能を備えながらも、市民のみならずが気軽に利用しやすいつくりになっている。様々な芸術作品の鑑賞の場として、また、創作活動の発表の場として活用を図りたい。

- 市民ミュージカルは今回2回目となるが、市民キャスト・観客共に非常に盛り上がった。今後も定期的な開催を検討したい。
- 文化会館自主事業に関して、特に「千住真理子ヴァイオリン・リサイタル」では久しぶりにチケットが完売し、非常に好評であった。今後も市民のニーズに対応した自主事業を企画したい。
- 八幡浜市民文化活動センターには、主に市民活動の成果を発表する場として342席のコンパクトなホールを備えている。文化会館大ホールとの役割分担を行いながら利用促進に努めたい。